

令和3年度学校教育自己診断アンケート実施結果

今年度の学校教育自己診断は令和3年11月中旬から令和3年12月上旬に実施

()の中の数字は2年度&元年度の回収枚数

対象： 本校在籍児童生徒 回収枚数 66 (64,64)
 本校在籍教職員 回収枚数 67 (67,67)
 学院職員 回収枚数 48 (49,54)
 保護者 回収枚数 1 (20,19) ※学院レターボックス配布

◎質問内容と肯定的な回答の割合

質問分類	質問内容	児童生徒	保護者	学院職員	教職員
①学校に対する意識	学校は楽しい。楽しみにしている。	93%	100%	90%	100%
②生徒指導に関する意識	カウンセリングマインドを取り入れた生活指導を行っている？	—	—	—	76%
③進路指導に関する質問	将来について考えたことがあるか。	77%	—	—	—
	適切な進路指導を行っている。	—	100%	40%	82%
④教育相談に関する質問	自分の考えや思いを話せる先生がいる。	76%	—	—	—
	児童生徒が担任以外に相談できる体制がある。	—	—	—	78%
⑤道徳・人権教育に関する質問	友だちは大切・好き。命の大切さ、ルール、マナーを学んでいる。	90%	—	—	—
	学校は子どもに生命を大切にす心やルールやマナーを守る態度を育てようとしていると思いますか。	—	100%	40%	88%
⑥学校行事に関する質問	学校行事は楽しい。	91%	—	—	—
	子どもたちは学校行事に魅力を感じているか。	—	100%	81%	—
	魅力ある学校行事への工夫改善をしているか。	—	—	—	93%
⑦障がい理解に関する質問	先生が好き。先生はあなたの気持ちを理解している。	81%	—	—	—
	指導内容・指導方法を工夫・改善している。	—	—	—	87%
	学校は子どもの障がいを理解している。	—	100%	40%	—
⑧学習指導に関する質問	授業は楽しい。授業は分かりやすい。	80%	—	—	—
	授業で児童生徒の力を伸ばせている。	—	—	—	90%
	学校は子どものニーズに合った教育を行っている	—	100%	42%	—
	授業で児童生徒のQOLを高める取り組みをしている	—	—	—	90%
	個別の教育支援計画は活用されている。	—	—	—	67%
	授業でICTを活用した取り組みをしていると思いますか	84%	100%	25%	85%

⑨情報提供に関する質問	学院との情報共有や研修企画等において、連携はうまく行われている。	—	—	—	63%
	学院・保護者と学校は必要な情報交換ができています。	—	100%	42%	60%
⑩学校組織に関する質問 (学校職員用)	教育活動について日常的に話し合っているか？	—	—	—	91%
	各学部・分掌の連携はうまく行われているか？	—	—	—	58%
	学校運営に個々の教職員の意見が反映されている？	—	—	—	30%
	小中高の一貫教育が行われていると思うか？	—	—	—	43%
	地域支援や交流校等との連携に適切に取り組んでいる。	—	—	—	79%
	体験学習等について関係機関との連携をはかり、その内容の充実を進めている。	—	—	—	88%
	SSSや学校支援員の配置における感染症予防や児童生徒支援により、教職員の負担軽減の取り組みが進んでいる	—	—	—	76%
⑪教育活動の改善	教育活動全般にわたるPDCAサイクルに基づいた評価を行い、次年度の計画に生かしていますか	—	—	—	72%
⑫いじめに関する質問	いじめが起これば学校は真剣に対応すると思う。	79%	100%	52%	76%

課題と今後に向けて

・新型コロナウイルス感染症拡大予防により、大阪整肢学院（以下学院とする）では面会制限が実施され、授業参観においても保護者の参観を中止せざるを得ない状況が続いているため、保護者アンケートは学院のレターボックスに入れ、面会に来られた保護者に実施した。今回アンケートを提出された保護者は1人であった。

・学校に対する意識では、児童生徒、学院職員、学校職員、保護者ともに高い傾向にあり、児童生徒のほとんどが学校に行くのを楽しみにしていることがうかがえる。

・学校職員に対する、カウンセリングマインドを取り入れた生活指導については、76%(R2 69%)の学校職員が行っていると回答した。

・進路指導に関する質問では77%(R2 65%)と回答し、多くの児童生徒が将来のことについて考えたことがあると答えている。学校職員で進路指導に対し適切な指導を行っていると考えている者は82%(R2 78%)で、学院職員は昨年度の57%から40%と肯定的評価が下がっているため、取組みをしっかりと伝えられるようにしたい。

・教育相談に関わる質問では、児童生徒が76%(R2 84%)、学校職員が78%(R2 72%)と概ね肯定的評価であった。

・道徳・人権教育に関する質問では、児童生徒が90%(R2 90%)、学校職員が88%(R2 89%)と概ね肯定的評価であったものに対し、学院職員の肯定的評価は昨年度の57%から40%に下がった。

- ・障がい理解に関する質問では、児童生徒が 81%(R2 87%)、学校職員が 87%(R2 86%)に対し、学院職員の肯定的評価は 40%(R2 49%)であった。
- ・学習指導に関する質問では、児童生徒が 80%(R2 96%)、学校職員が 90%(R2 89%)に対し、学校は子どものニーズに合った教育を行っているかという質問の学院職員からの評価が 42%(R2 59%)で、ICT を活用した取り組みに対する質問では、児童生徒が 84%(R3 より)、学校職員が 85%(R3 より)であったのに対し、学院職員からの評価が 25%(R3 より)で、大きな差があった。ICT をはじめ校内での取り組みの外部発信に努め、学院職員への理解を深めたい。
- ・学校職員に対する学校組織に関する質問では、小中高の一貫教育に対する肯定的評価が 43%(R2 48%)、学校運営に個々の教職員の意見が反映されているかといった意識は 30%(R2 29%)と著しく低い数値となっている。今後も、学部や分掌等が横断的に取組める活動を進められるようにしたい。反面、教育活動の改善に関する質問では、肯定的評価が 72%(R2 69%)となっている。
- ・いじめの対応に関する質問では、児童生徒の肯定的評価が 79%(R2 69%)、学校職員が 76%(R2 67%)に対し、学院職員の肯定的評価は 52%(R2 53%)だった。引き続き、取組みの理解が進むよう発信したい。
- ・進路、道徳、人権、障がい理解、ICT 活用の各項目については、学院職員の回答が著しく低い状況となった。校内の取り組み状況をさらに発信・理解深化のための努力が必要である。
- ・昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、校内で予定していた取り組みや行事の多くが中止または延期となったが、今年度は一部中止したものもあるが、感染症対策をおこなった上で、予定していた小学部高等部の修学旅行をはじめ、様々な取り組みや行事を実施することができた。
- ・学院との連携については、今後も引き続き、各種研修や児童生徒支援について深化できるように努めたい。